ときめき きらめき いきいきを伝える

広報

Seki せき

2017

4

No.1674

SEKI JAPAN 50回 関市刃物まつり

特集
関まつり… P2~5

浦嶋山車（常盤町自治会）

TOPICS

・介護予防口コトレ講座…P7
・乳幼児期家庭教育学級 …P9
・犬の登録と狂犬病予防注射 …P14
・お知らせ…P22~31
・しあわせヘルスだより…P32~34
・文化会館／図書館…P35

●「豪華絢爛・大門の本御輿」

平成28年
特等

●「大雲寺と大嶋雲八」

▲取材当日、集まっていただいた大門会の皆さん

大門町自治会連合会

大門会 会長 遠藤 保和さん

みこしづくりは大門の伝統。大門に生まれ育った者にとっては、子どもの頃からのあこがれであり、みこしを担ぐことは誇りでもある。

作るみこしの構想は、昨年のあんどんみこしコンクールの帰り道から既に始まり、だいたい夏にはイメージが固まる。実際の制作は2月1日から始まり、作業場では毎晩、専門班に分かれてひとつひとつみこしが形作られていく。そして4月に入り、関まつりが近づいてくると、みこしづくりは佳境を迎え、徹夜になることもしばしば。大変な作業に変わりはないが、集うメンバーは楽しみながら、一丸となって取り組んでいる。期待と不安が入り乱れ、本番当日のプレッシャーはすごいが、その分、力を出し切った達成感は何にも代えられない貴重な体験だ。

今年は"光"をテーマに、皆さんの期待に応えられるよう、大門の底力をきっと見せつけてくれるはずです。

コンクール

日時 4月15日（土）コンクール 18:45〜20:30
16日（日）表彰式 19:00〜20:00

場所 本町通り

▲先輩達に見守られながら
普段から親睦を深めています！

▲細かい作業は、話し合いながら進めていきます

●「祭りだ！金龍刀匠街道」

平成26年
1等

●「七窓から福が来る」

平成25年
1等

●「二頭龍」

あんどんみこし

春の一大イベント「関まつり」。なかでも多彩なおみこしが集結する「あんどんみこしコンクール」は、多くの市民の皆さんにとって関心の的ではないでしょうか。さあ、今年もぜひ、会場に足を運んで、まつりの興奮と感動を味わってください！！

金龍親友会

金龍親友会 会長 長 裕太郎さん(左)

幹事長 永井 傑さん(右)

平成25年 特等

●「豊川閣のお稲荷さんと達磨大師」

平成26年 特等

●「八角堂」

平成27年 1等

上白金の32歳から45歳の39人（3月8日時点）で構成される金龍親友会。

昨年12月から制作を開始し、毎晩13人ほどが集合します。"関を盛り上げたい"その気持ちは人一倍！

☆金龍親友会のみこしのこだわりは3つ

一、"あんどんみこし"であること！

一、関市に関係するものを表現する！！

一、金龍の"龍"！！！

☆西部地区ならではの苦労も・・・

「コンクール会場から離れている西部地区では、"みこし"をトラックで運搬します。ところが、道路を通行できる車両の幅の限度が2.5メートルに定められているので、"みこし"の幅の上限も2.5メートルにっっっ。

だから、金龍親友会が制作するあんどんみこしの形状は、毎年、直方体なんです・・・」

▲みこしづくりは楽しく♪団結力が大門の魅力です

▲期間中、制作は毎晩続けられます

▲取材当日、集まっていただいた金龍親友会の皆さん

平成28年 1等

●「金龍ねぶた　浪裏と炎の謝肉祭」

平成27年 特等

古典神事芸能

童子夜行

四月の春祭りには「童子夜行（どうじやこう）」というめずらしい滑稽な古典神事芸能があり、春日神社が創建された頃より続いています。

◆「童子夜行（どうじやこう）」…

毎年豊作が続き、子供らがたわむれ暮らしよい村に、ある日、魔物が住みつきました。

夜な夜な悪さをしでかす魔物に、童子・童女はもちろん大人でも夜は外へ出るのを恐れました。村ではその恐ろしさにおののき、日が暮れかかると、どの家も戸を閉め、震えながら朝が来るのを待ちました。

村人たちは、平和な暮らしを取り戻すため、いろいろ相談しましたが、打つ手がなく困り果てていたとき、神様から「魔物は餅が大好物で、たくさん喰わせれば喰わせただけ前後不覚に寝入る性質があるのでその間に退治するがよいぞ。」とのお告げがありました。

その後、村人たちは知恵を出し合って餅を喰わせ、魔物が寝入ったすきに住家がある山に火を放ちようやく退治することができました。

以来この村に平和がよみがえり、童子・童女が安心して夜道の行交いができるようになりました。このような伝説から「童子夜行」と呼称するようになりました。

こうした神様のお告げにより村は天下泰平となったことに感謝の意を込めて、毎年春祭りに「童子夜行」を演題として奉納するようになりました。

春日神社は正応元年（1288年）に金重、兼永（関鍛冶の刀祖）の両名が奈良の春日大社より御分紙を迎えて関鍛冶の守護神として御神殿を創建したのが始まりです。
この神社には室町時代の能装束を始め能面・奉納刀など、歴史と文化が偲ばれる数多くの文化財が保存されています。

平成29年
4月16日

○一番立・四方浄め

舞台を浄めるため主役が三方に乗せた塩花を撒きつつ一巡します。

○二番立・薙刀振り

薙刀と白扇を使い、ばね仕掛けのように破魔舞を演じ悪魔払いと地がためをするものです。

○三番立・棒振り

おちょけてもよい、ふざけてもよい、しかし棒振りが笑うと世の中がよくならない・・・と伝えられており、厳粛に行い怨霊を鎮め浄めます。

○四番立・宝獅子（魔物に見立てたもの）

魔物が村を襲い、次つぎと村人達に危害を加えるところを独特で滑稽な演技で感動させます。
ここで魔物に大きな餅を喰わせる面白く大胆な演技が始まります。

○六番立・どうじやこう（山の住家を焼き払い魔物を退治）

竹を組み桧の葉を結び付け深い山（魔物の住家）を表した特大の熊手を立てたものへ木箱に入った猿面の二体の木偶（でく）が大熊手までの長い綱を渡り、山（大熊手）に松明の火を放ち、魔物を退治する演技です。この時「どうじやこうなりけり自在なりけり」と唱えながら綱を繰ります。焼け残った松明・割竹は縁起物で、また幸せを招くものとして参詣者がきそって持ち帰ります。

○五番立・箕（み）獅子（魔物に見立てたもの）

箕獅子は滑稽で横暴で激しく暴れ回ります。箕獅子に食いつかれると厄逃れになるという言い伝えもあるこの演技は、見る人を爆笑と感動の渦に巻く一場面です。こうして大きな餅を食べ、満腹になった魔物が、後ずさりをしながら山奥の住家へ帰るという面白い演技です。

○七番立・豊年踊り

見事魔物を退治し、無事に前のような平和な村がもどり、めでたしめでたしの踊りが始まります。
この踊りは役員が総出で、一枚の四角の角を斜めに切り落とした和紙に、木槌、鍵、松などの神宝と国家安泰・五穀豊饒の文字が書かれた宝笠をかぶり、手に薄板二枚の拍子木をもって、カチカチとリズムよく粛々と舞う踊りは歴史と文化を偲ばせる豊年踊りで、鼓・笛・太鼓で奏でる「下り葉」の調べが哀愁を残して約一時間にわたる「童子夜行」神事芸能は終わります。

地域のまつり

花馬まつり（武芸八幡宮例祭）：武芸川

4月15日に近い日曜日に開催。桜の造花を背中に飾った暴れる花馬から造花を奪い合う祭り。造花を輪にして屋根に上げると落雷防止や家内隆盛のご利益があると言われている。

水無神社の例大祭：富之保

4月15日に近い日曜日に開催。みこしが通る道中を清めるため、「棒ふりの鬼」を先頭に、大太鼓を叩きながらゆっくりと歩く。みこしの下をくぐると無病息災でいられると言われている。

先谷まつり（八幡神社大祭）：上之保

4月の第2日曜日に開催。みこしの下をくぐったり、鬼の面を付けみこしの先達をする「棒ふり」に悪口を言って追われたり、竹棒で叩かれたりすることで厄を逃れると言われている。